

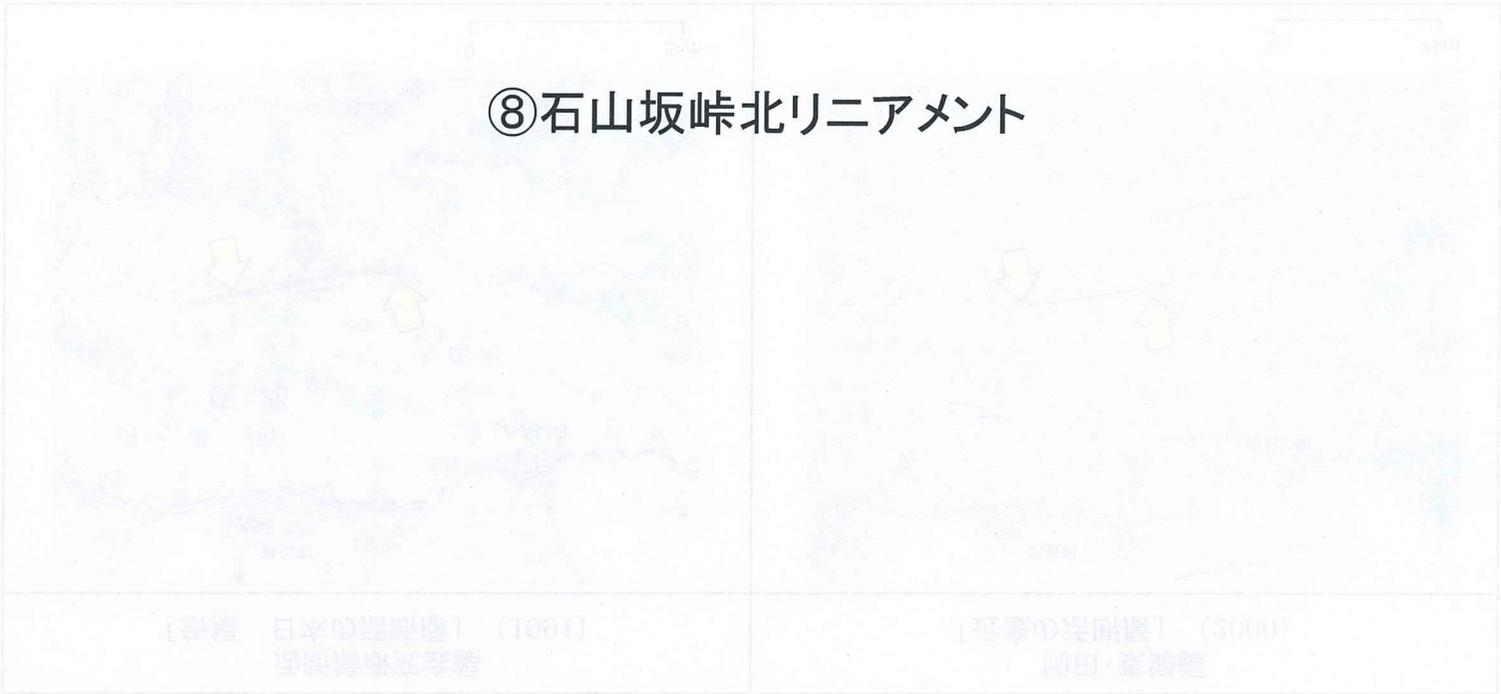
計画年度：平成27年度  
 実施年度：平成27年度  
 実施内容：石山坂峠北リニアメント

石山坂峠北	100m	II	石山坂峠北
石山坂峠南	100m	II	石山坂峠南

計画年度：平成27年度  
 実施年度：平成27年度  
 実施内容：石山坂峠北リニアメント

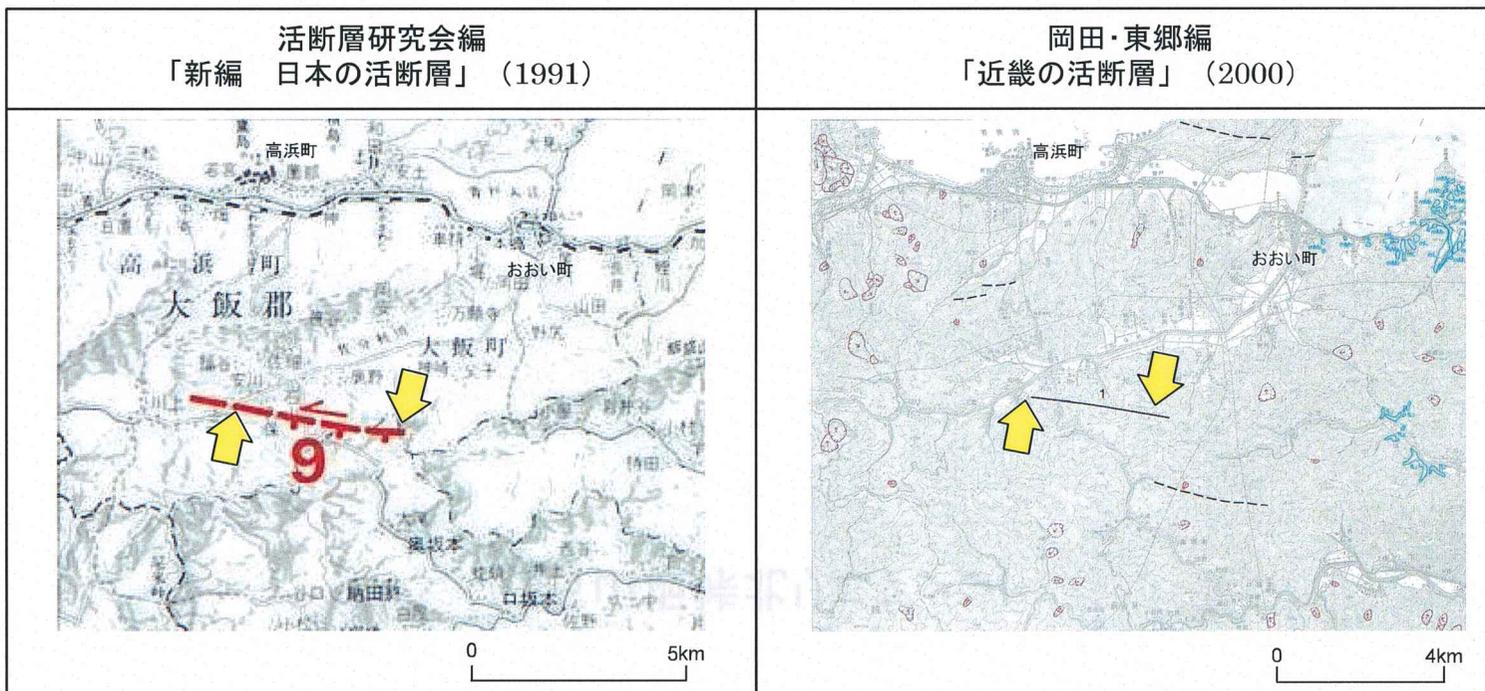
石山坂峠北	100m	I	石山坂峠北
石山坂峠南	100m	I	石山坂峠南

### ⑧石山坂峠北リニアメント



石山坂峠北リニアメントに関する文庫

# 石山坂峠北リニアメントに関する文献



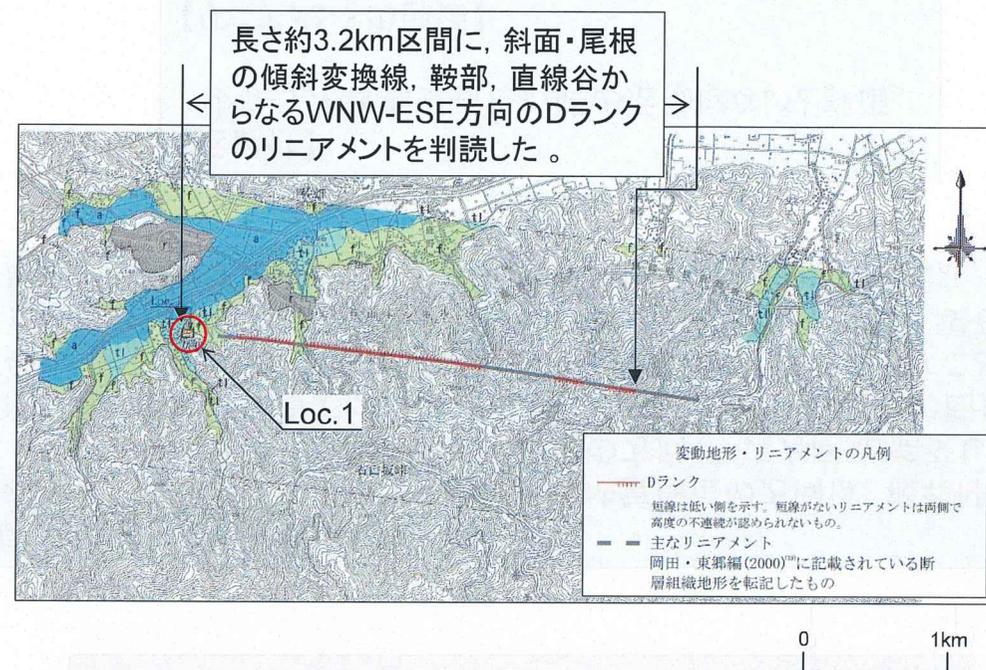
断層名	長さ	確実度	変位の向き
9 石山坂峠北	5km	II	左横ずれ 北側隆起

確実度 I : 活断層であることが確実なもの  
 確実度 II : 活断層であると推定されるもの  
 確実度 III : 活断層の疑いがあるリニアメント

断層名	長さ	確実度	変位の向き
石山南東	3.3km	L	左横ずれ

活断層の確実度  
 確実度 I : 活断層であることが確実なもの  
 確実度 II : 活断層であると推定されるもの  
 断層組織地形  
 連続性に富むシャープなリニアメント (L)  
 主なリニアメント

# 石山坂峠北リニアメントの調査結果



### 地質調査結果

●Loc.1

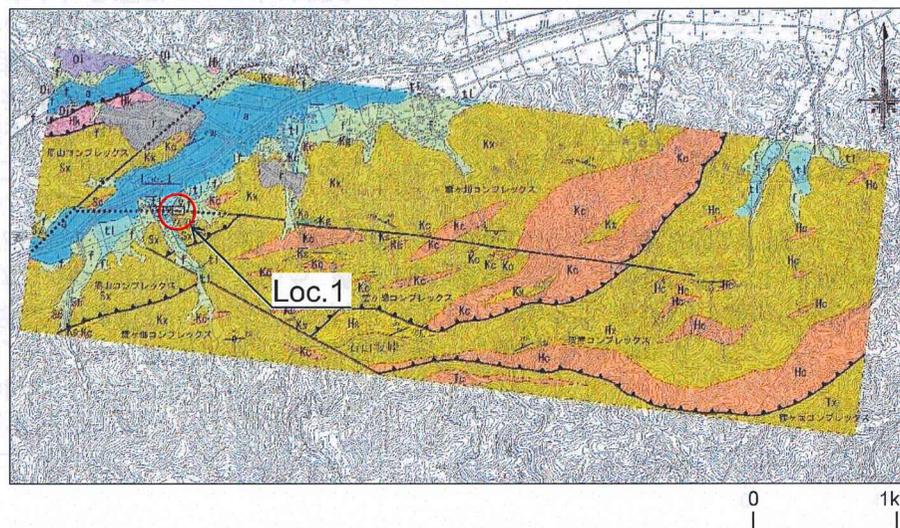
リニアメント判読位置の泥質混在岩中に断層を確認した。

破碎帯は幅約1.2m以下で角礫状を呈し、所々に変質粘土脈が認められるが、分布は不規則である。断層面の走向はリニアメントの方向と調和的である。断層面は湾曲し、破碎帯周辺の短い割れ目の多くは変質粘土を挟み、網目状を呈する。

この断層においてブロックサンプリングを行い、変形組織の観察を行った結果、破碎帯は角礫状破碎部と礫混じり粘土状破碎部からなり、最新活動を示す断層面の変形組織は正断層センスを示すことを確認した。

また、条線観察の結果、条線のレイクは20° R、45° Rであり、最新活動時の運動センスは左横ずれ正断層である。これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

## 石山坂峠北リニアメントの評価



### 【調査結果】

- 本リニアメント周辺に分布する丹波帯の地質構造の方向は、概ねNE-SW～ENE-WSW方向で、リニアメントの延びの方向(E-W方向)と斜交している。
- リニアメント判読位置では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められ、最新活動を示す断層面の変形組織が正断層センスを示すこと、条線観察の結果、最新活動時の運動センスは左横ずれ正断層であり、現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しないことを確認した。



### 【活動性】

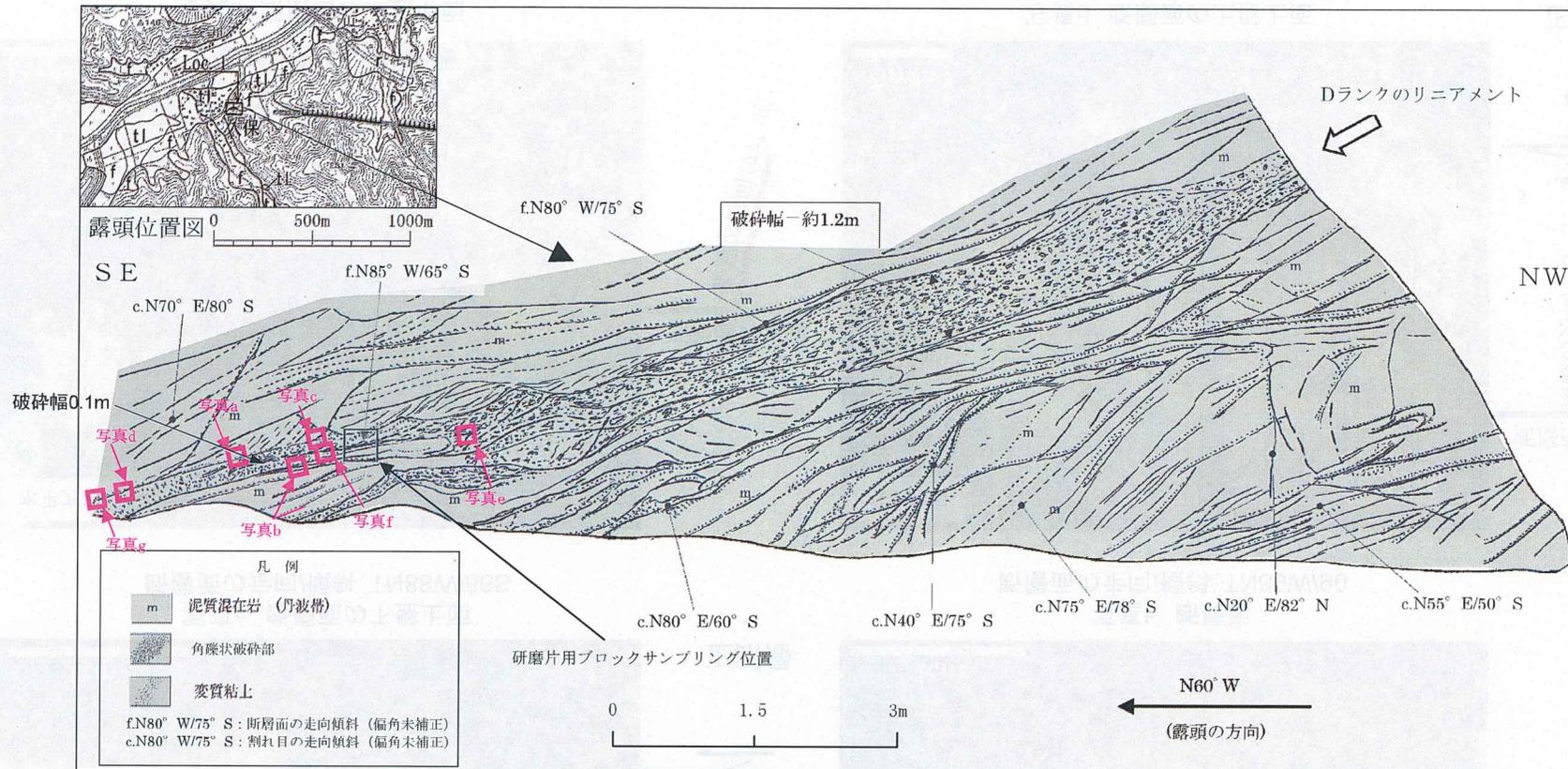
少なくとも後期更新世以降の活動はないと評価。

### 【リニアメントの評価】

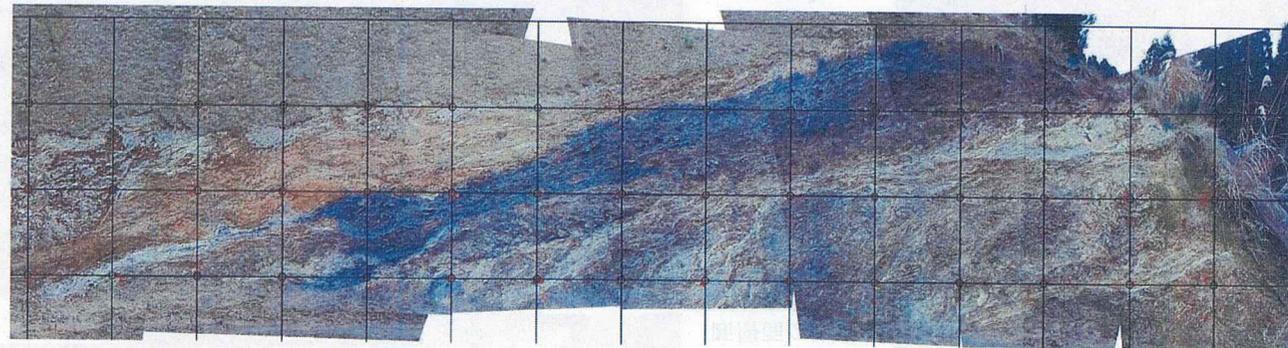
古い断層による組織地形であり、将来活動する可能性のある断層等は認められないと評価。

# 石山坂峠北リニアメントの調査結果 (Loc.1)

第122回審査会合  
p132再掲



露頭スケッチ



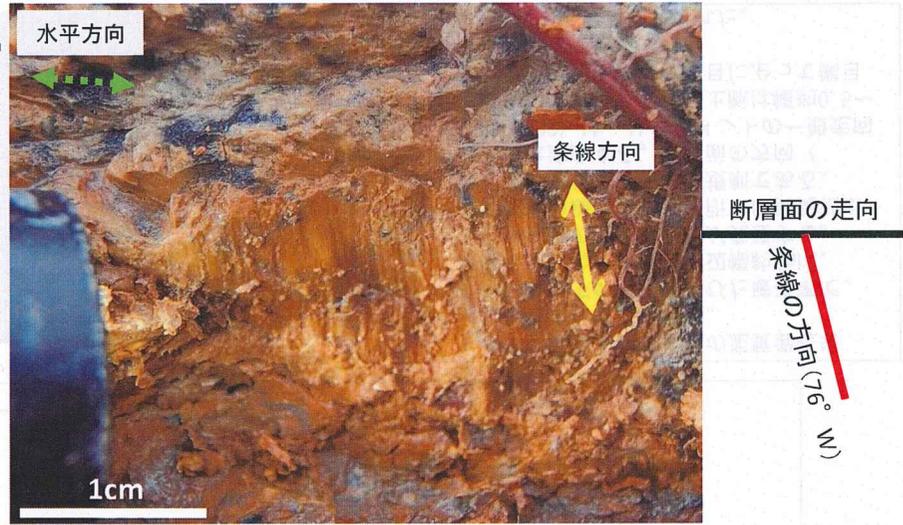
露頭写真

メッシュは1m間隔

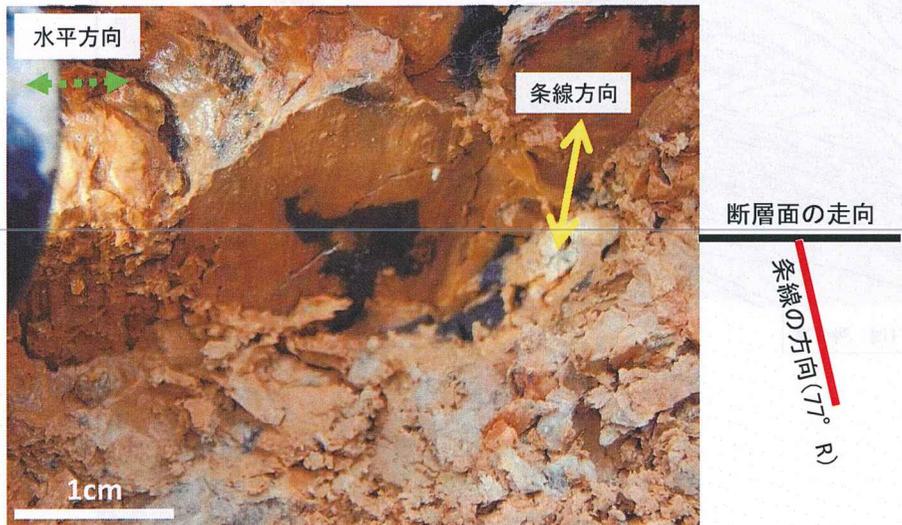
リニアメント判読位置の泥質混在岩 (丹波帯) 中の破砕帯露頭。  
幅1.2m以下の黒色を帯びた破砕帯で、破砕帯を含めた破砕帯周辺幅約4mは、灰色～白色の変質粘土脈が発達する。破砕帯は角礫状を呈し、所々に変質粘土脈が認められ、分布は不規則である。断層面は湾曲する。断層面の方向 (TN85E/60S) は、リニアメントの一般走向と調和的である。変質粘土脈は幅約0.5～30cmで、断層面及び割れ目に沿って網目状に分布している。  
7ヶ所で条線が認められた。



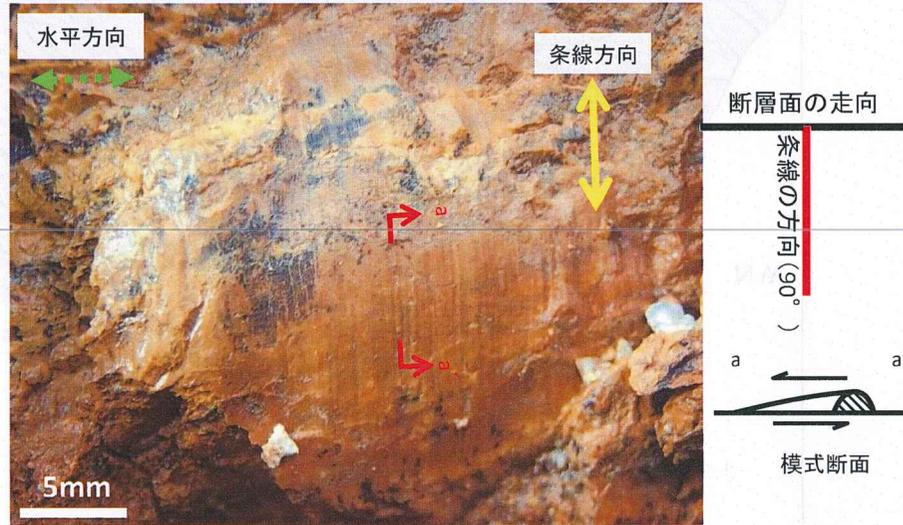
写真a 断層面の下盤上面  
断層面の走向/傾斜: TN88W/66S



写真b 断層面  
断層面の走向/傾斜: TN89W/90



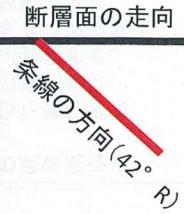
写真c 断層面の上盤下面  
断層面の走向/傾斜: TN87W/60S



写真d 断層面の上盤上面  
断層面の走向/傾斜: TN85W/76S



写真e 断層面上盤下面  
断層面の走向/傾斜: TN89W/70S

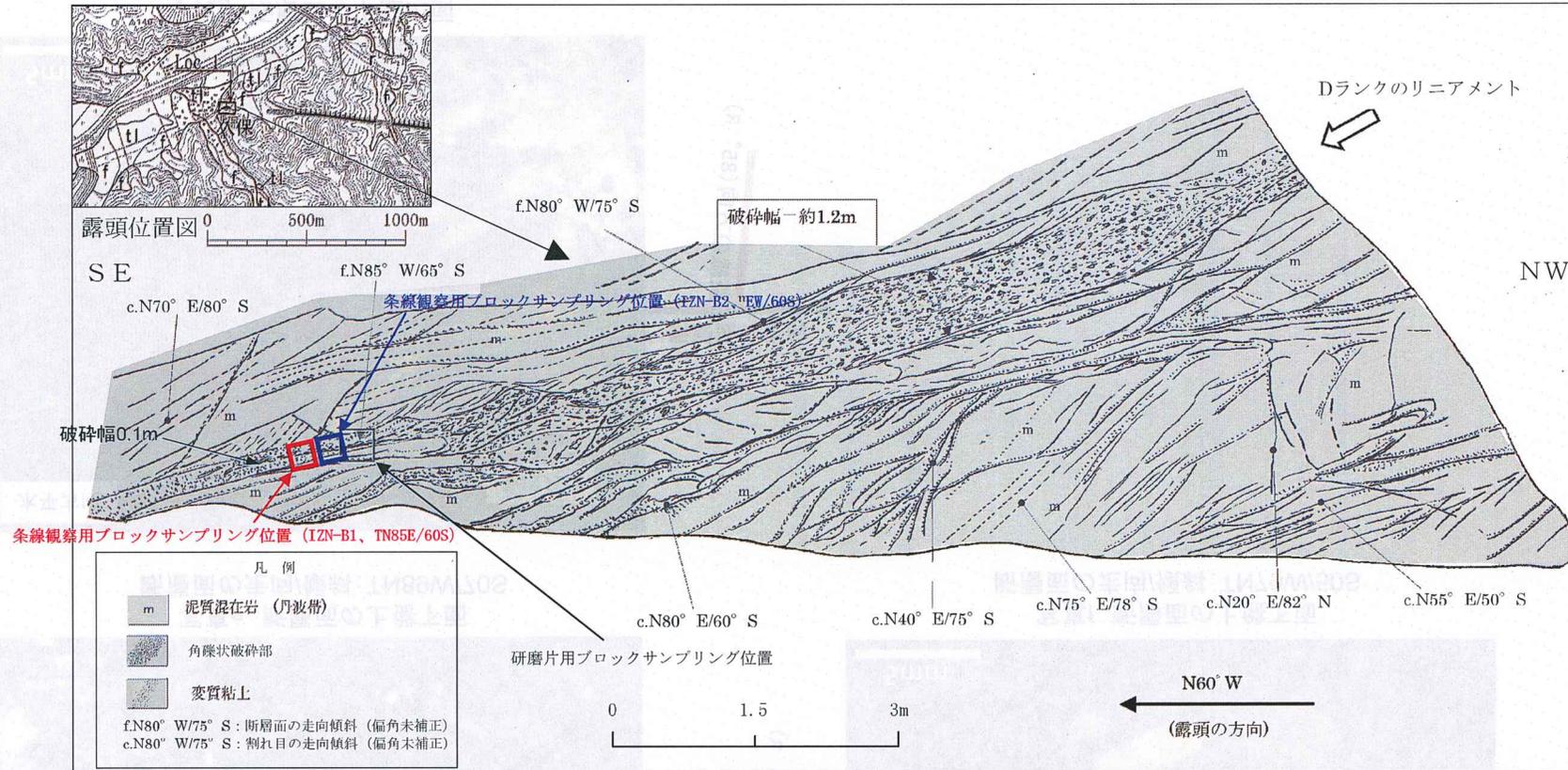


写真f 断層面上盤下面  
断層面の走向/傾斜: TN79W/50S

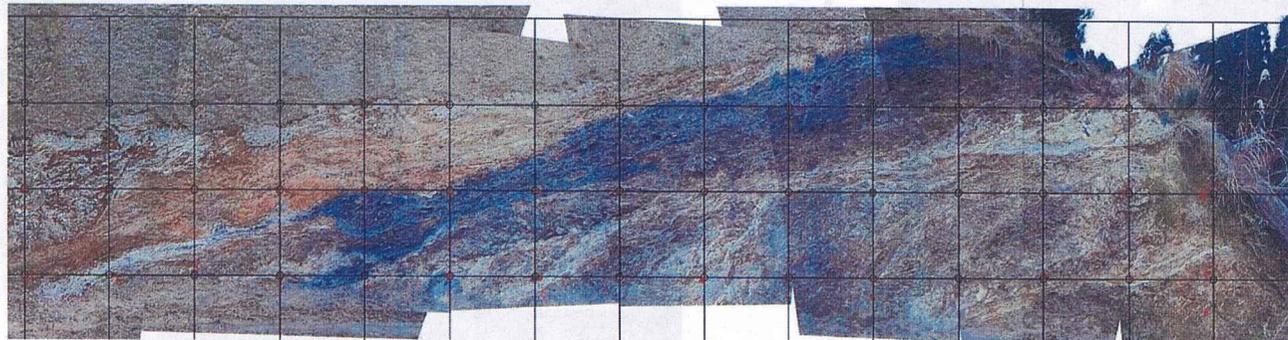


写真g 断層面下盤上面  
断層面の走向/傾斜: TN83E/20S  
条線はやや不明瞭

# 石山坂峠北リニアメントの調査結果 (Loc.1)



露頭スケッチ



露頭写真

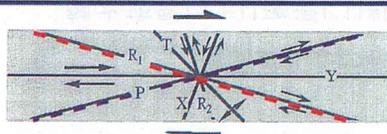
リニアメント判読位置の泥質混在岩 (丹波帯) 中の破碎帯露頭。

幅1.2m以下の黒色を帯びた破碎帯で、破碎帯を含めた破碎帯周辺幅約4mは、灰色～白色の変質粘土脈が発達する。破碎帯は角礫状を呈し、所々に変質粘土脈が認められ、分布は不規則である。断層面は湾曲する。断層面の方向 (TN85E/60S) は、リニアメントの一般走向と調和的である。変質粘土脈は幅約0.5～30cmで、断層面及び割れ目に沿って網目状に分布している。

破碎帯下部でブロックをサンプリングし、変形組織の観察及び条線観察を実施した。

# 石山坂峠北リニアメントの調査結果 (Loc.1 研磨片観察結果)

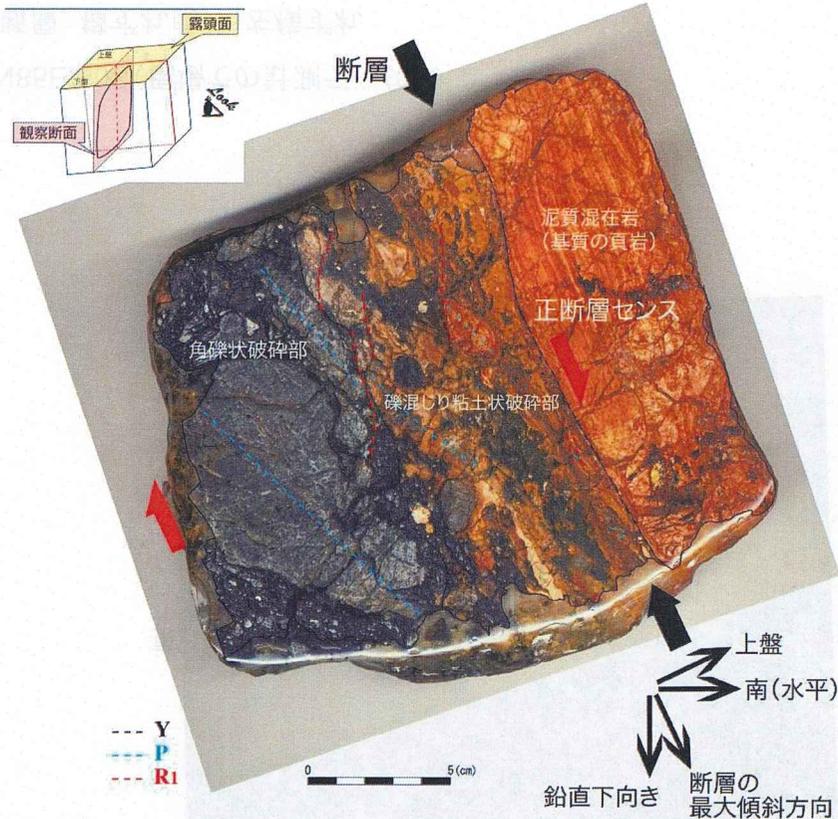
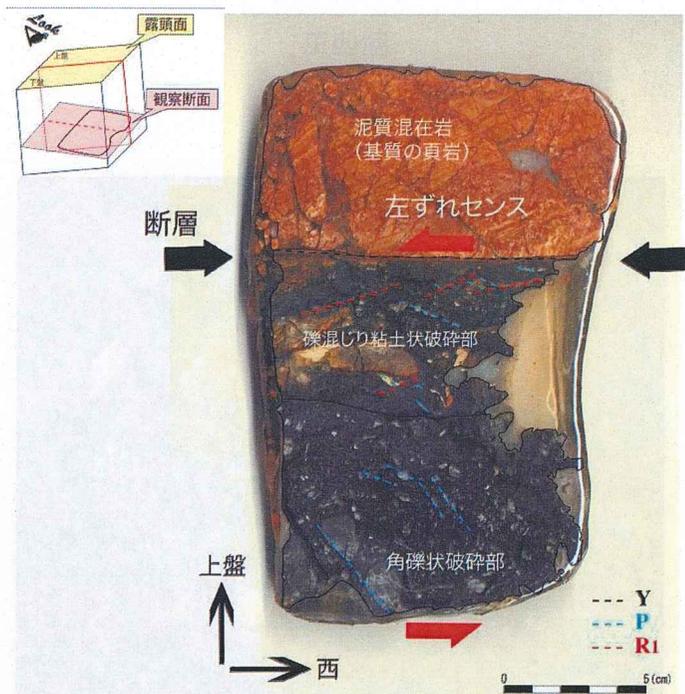
第122回審査会合  
p136再掲



せん断センスを示す複合面構造 (狩野・村田、1998<sup>(149)</sup>)

研磨片 (縦ずれ成分観察用)

研磨片 (横ずれ成分観察用)



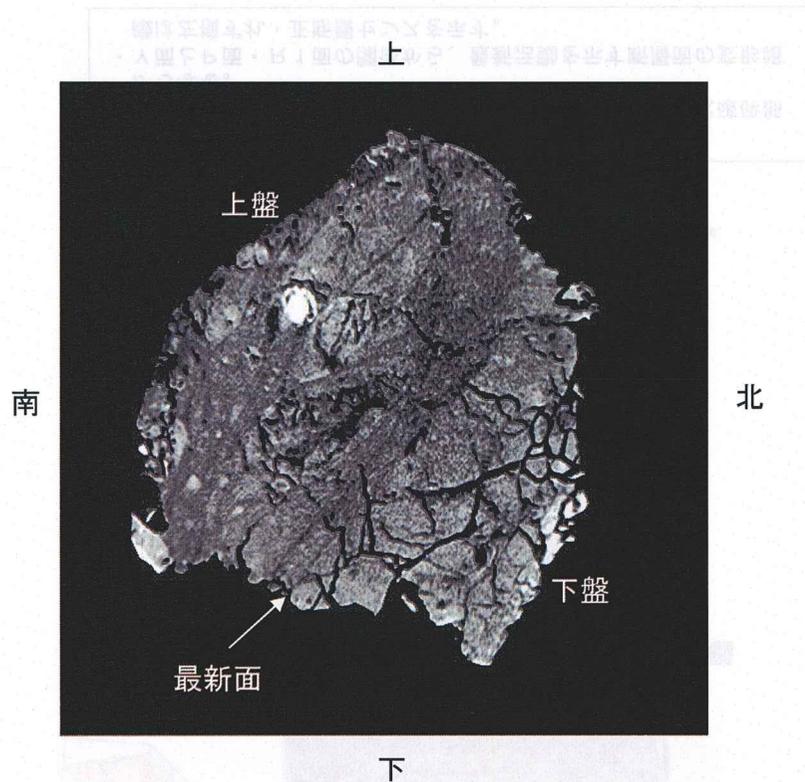
## 研磨片観察結果

- ・泥質混在岩を原岩とする角礫状破碎部及び礫混じり粘土状破碎部からなる。
- ・Y面とP面・R1面の関係から、最新活動を示す断層面の變形組織は左横ずれ・正断層センスを示す。

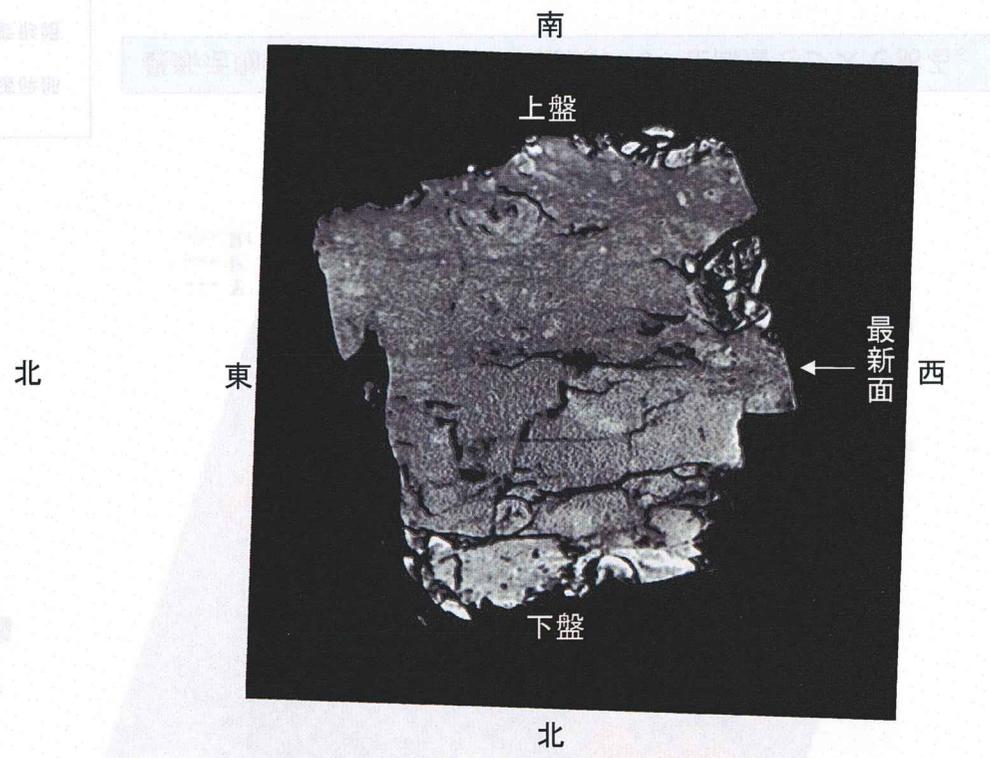
最新活動時の運動センスは、左横ずれ・正断層センスである。

# CT画像解析結果(IZN-B1)

第122回審査会合  
p137一部修正



正面図



水平図

※正面図は断層の走向方向に東側から西側に向けて、  
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: TN85E/60S(現場での計測データ)

縦ずれ成分: 正断層, 横ずれ成分: 左横ずれ

最新面はやや不明瞭である。

最新面に沿う幅約1cm以下のゾーンでやや密度が低い。このゾーンは膨縮する。

熱水変質により礫混じり粘土状破碎部が強く変質しており、露頭及び研磨片レベルでの膨縮が激しい。

また活断層で見られるような粘土状破碎部の分帯あるいは積層構造は認められない。

# IZN-B1

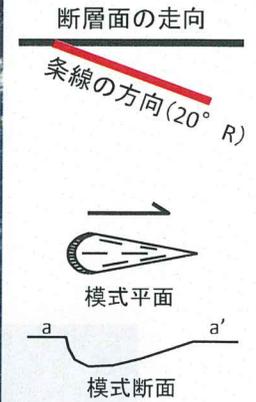
第122回審査会合  
p138再掲



IZN-B1(上盤下面)



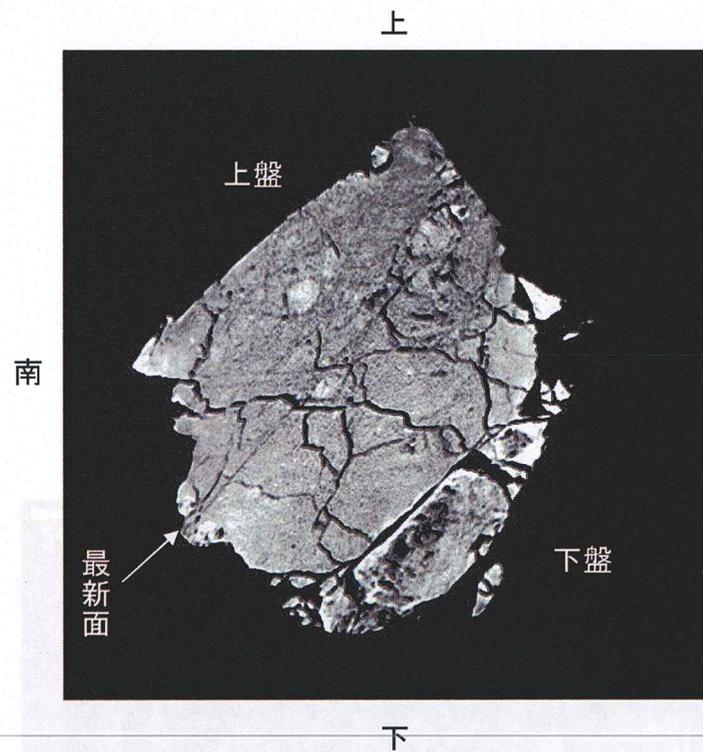
断層面の状況  
左横ずれ正断層



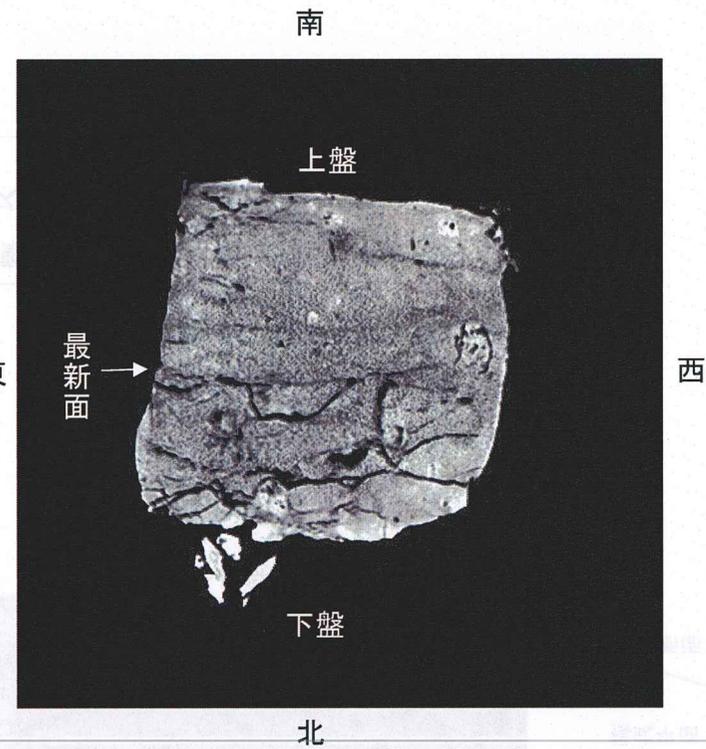
- ・条線観察の結果、条線のレイクは $20^{\circ}$  Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センス(右横ずれ逆断層センス)とは調和しない。

# CT画像解析結果(IZN-B2)

第122回審査会合  
p139一部修正



正面図



水平図

※正面図は断層の走向方向に東側から西側に向けて、  
水平図は上方から下方に向けて撮影。

断層の走向傾斜: EW/60S (現場での計測データ)

縦ずれ成分: 正断層, 横ずれ成分: 左横ずれ

# IZN-B2



IZN-B2(上盤下面)



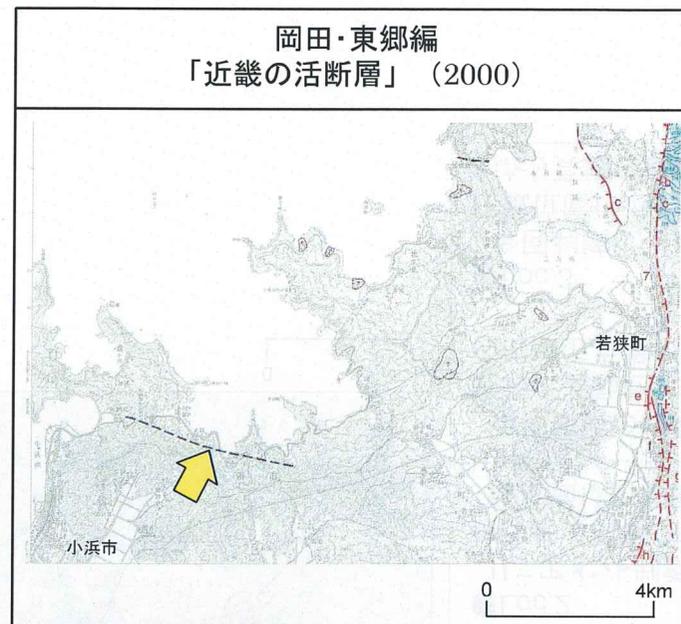
断層面の状況  
左横ずれ正断層



・条線観察の結果、条線のレイクは45° Rであり、運動センスは左横ずれ正断層である。  
・これは現在の広域応力場から推定される運動センス(右横ずれ逆断層センス)とは調和しない。



# 矢代リニアメントに関する文献



断層名	長さ	確実度	変位の向き
—	4.1km (図読)	主なリニアメント	—

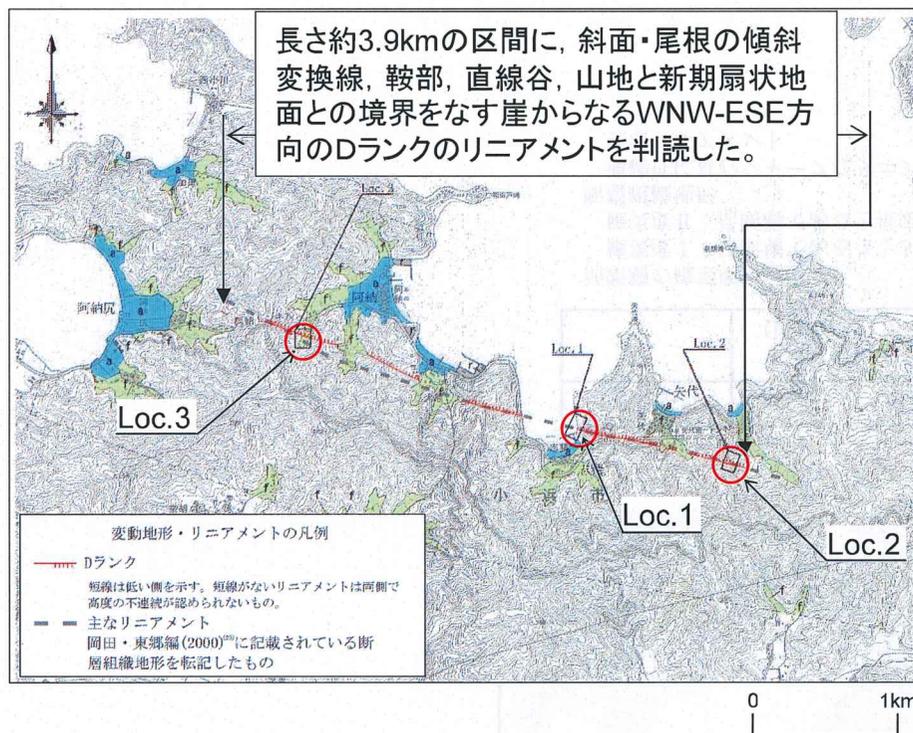
活断層の確実度

- 確実度Ⅰ：活断層であることが確実なもの
- 確実度Ⅱ：活断層であると推定されるもの

断層組織地形

- 連続性に富むシャープなリニアメント (L)
- 主なリニアメント

# 矢代リニアメントの調査結果



## 地質調査結果

### ●Loc.1

リニアメント直交方向に長さ約130mにわたり、丹波帯の砂岩、頁岩、緑色岩類及びこれを貫く珪長岩が連続的に分布している。

リニアメント判読位置の断層(Loc.1)の破碎帯は幅約10~20cmであり、細礫~片状に破碎された頁岩からなる。断層面の走向はリニアメントの方向と調和的であり、断層面には横ずれ方向の条線が認められる。破碎帯は固結し、断層面は湾曲し直線的でない。断層面は30° N程度で傾斜した岩盤すべりにより約50cm変位を受けている。

### ●Loc.2

リニアメント判読位置付近に珪長岩(岩脈)と頁岩起源の破碎帯の境界(下盤側)に断層を確認した。

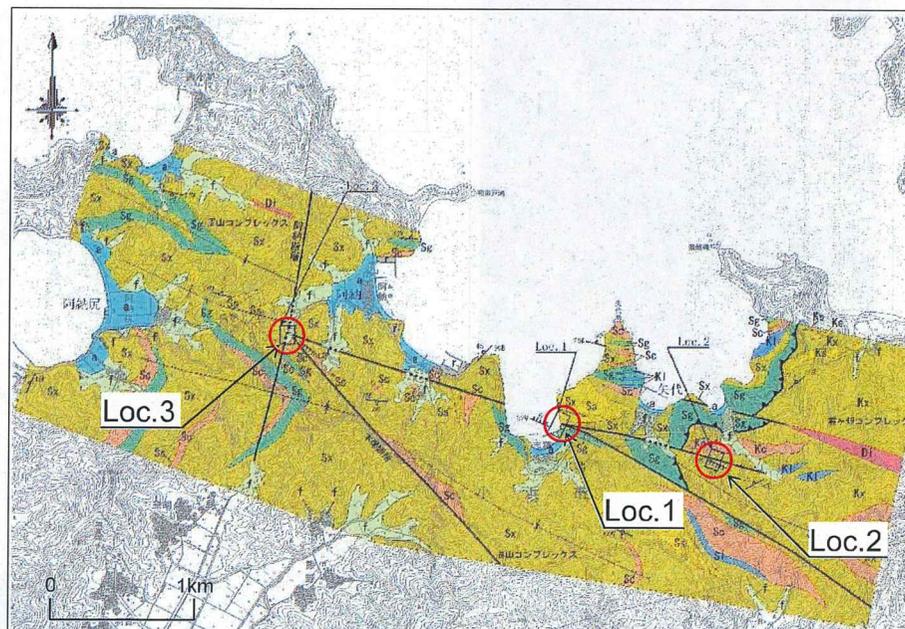
断層面は不鮮明で、それに沿う粘土も幅約2cm以下であり、膨縮し、一部で途切れる。

条線観察の結果、条線のレイクは50° Lであり、最新活動時の運動センスは右横ずれ正断層である。これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

### ●Loc.3

今回判読したリニアメント判読位置及び文献リニアメント記載位置付近には、リニアメント直交方向に長さ約55mにわたり頁岩の連続露頭を確認したが、断層は認められない。

## 矢代リニアメントの評価



### 【調査結果】

- 本リニアメント周辺に分布する丹波帯の地質構造の方向はリニアメントの方向と調和的である。
- リニアメント中央部(Loc.1)では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、破碎帯が固結していることを確認した。
- リニアメント東部(Loc.2)で、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、断層面が不鮮明で途切れること、条線観察の結果、最新活動時の運動センスは右横ずれ正断層であり、現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しないことを確認した。
- リニアメント西部(Loc.3)で、リニアメント判読位置及び文献のリニアメント記載位置に頁岩の連続露頭を確認したが断層は認められない。

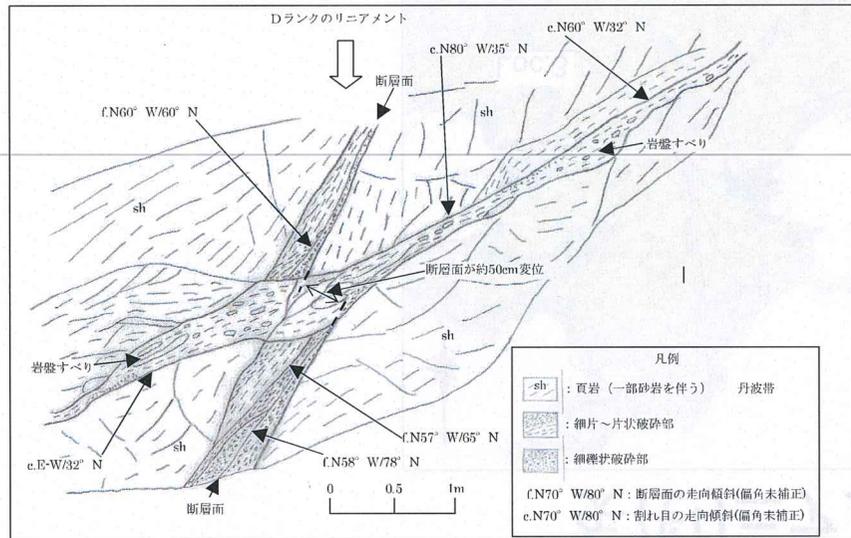
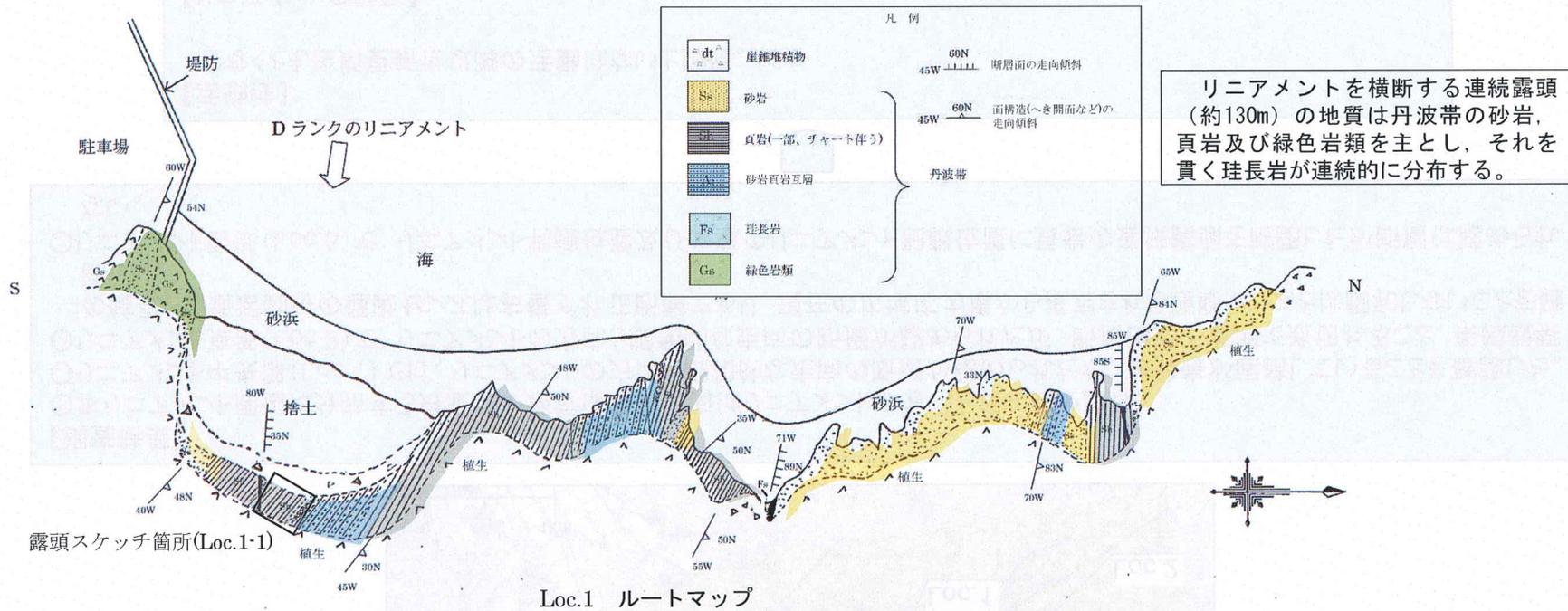
### 【活動性】

少なくとも後期更新世以降の活動はないと評価。

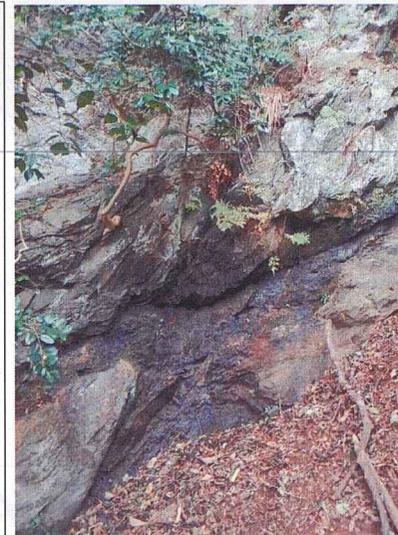
### 【リニアメントの評価】

古い断層や地質構造を反映した組織地形であり、将来活動する可能性のある断層等は認められないと評価。

# 矢代リニアメントの調査結果 (Loc.1)



露頭スケッチ

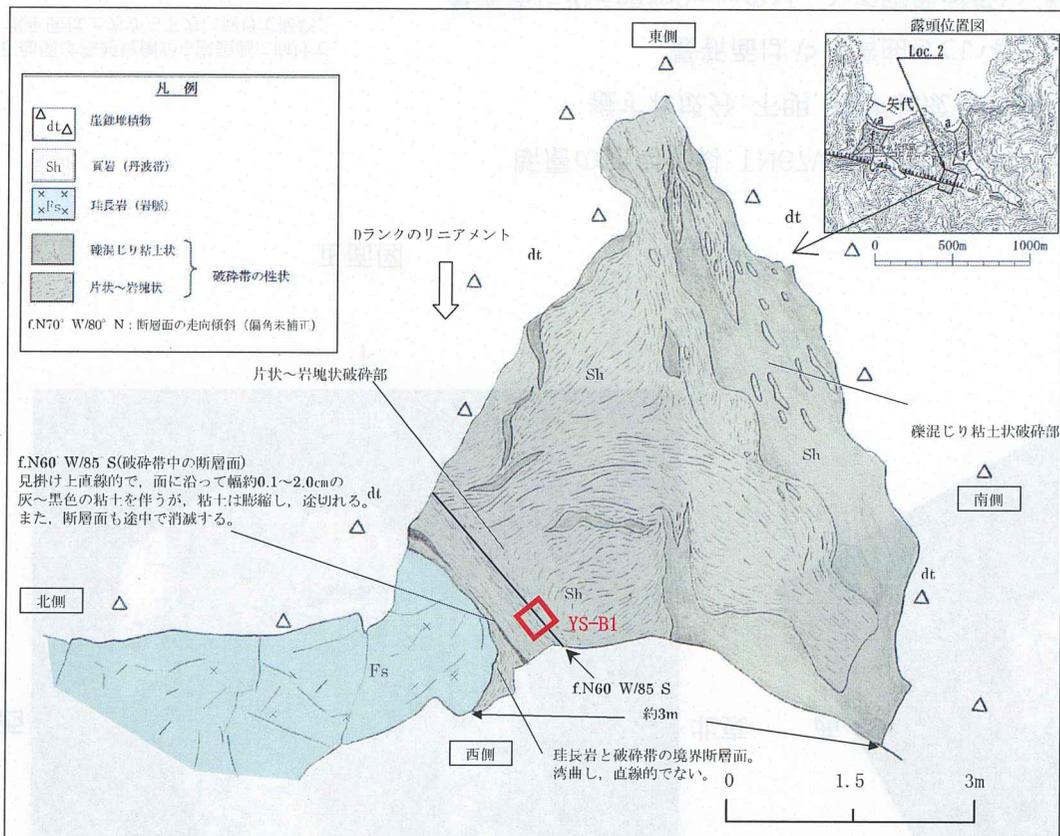


露頭写真

破砕帯は幅約10~20cmの細礫~片状に破砕された頁岩からなる。断層面の走向傾斜はN57° W/65° Nであり、リニアメントの方向(N75° W)と調和的であり、断層面には横ずれ方向の条線が認められる。破砕帯は固結し、断層面は湾曲し直線のでない。断層面は30° N程度で傾斜した岩盤すべりにより約50cm変位を受けている。

# 矢代リニアメントの調査結果 (Loc.2)

第122回審査会合  
p146加筆

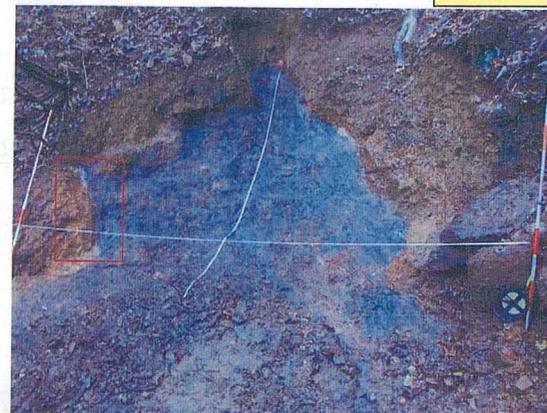


露頭スケッチ

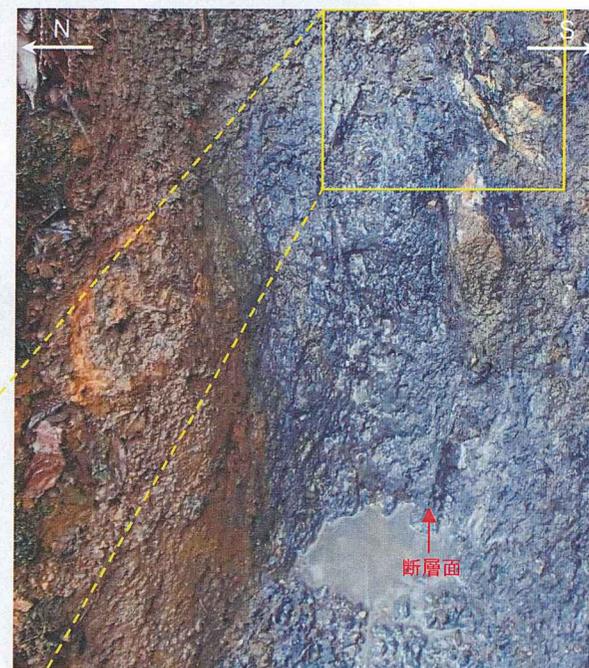
リニアメント判読位置付近に、珪長岩の岩脈 (幅約3m) と頁岩起源の破碎帯 (幅約3.5m) の境界 (下盤側) に断層を確認した。

破碎帯は黒色の細片状となった頁岩で、粘土~砂状の部分もある。上盤との境界は、崖錐堆積物に覆われ、不明である。

片状~岩塊状破碎部のうち細粒部 (粘土質、断層面に平行な構造を伴う) と粗粒部を境界付ける断層面 (TN67W/85° S) でブロック (YS-B1) をサンプリングし、条線観察を実施した。



露頭写真

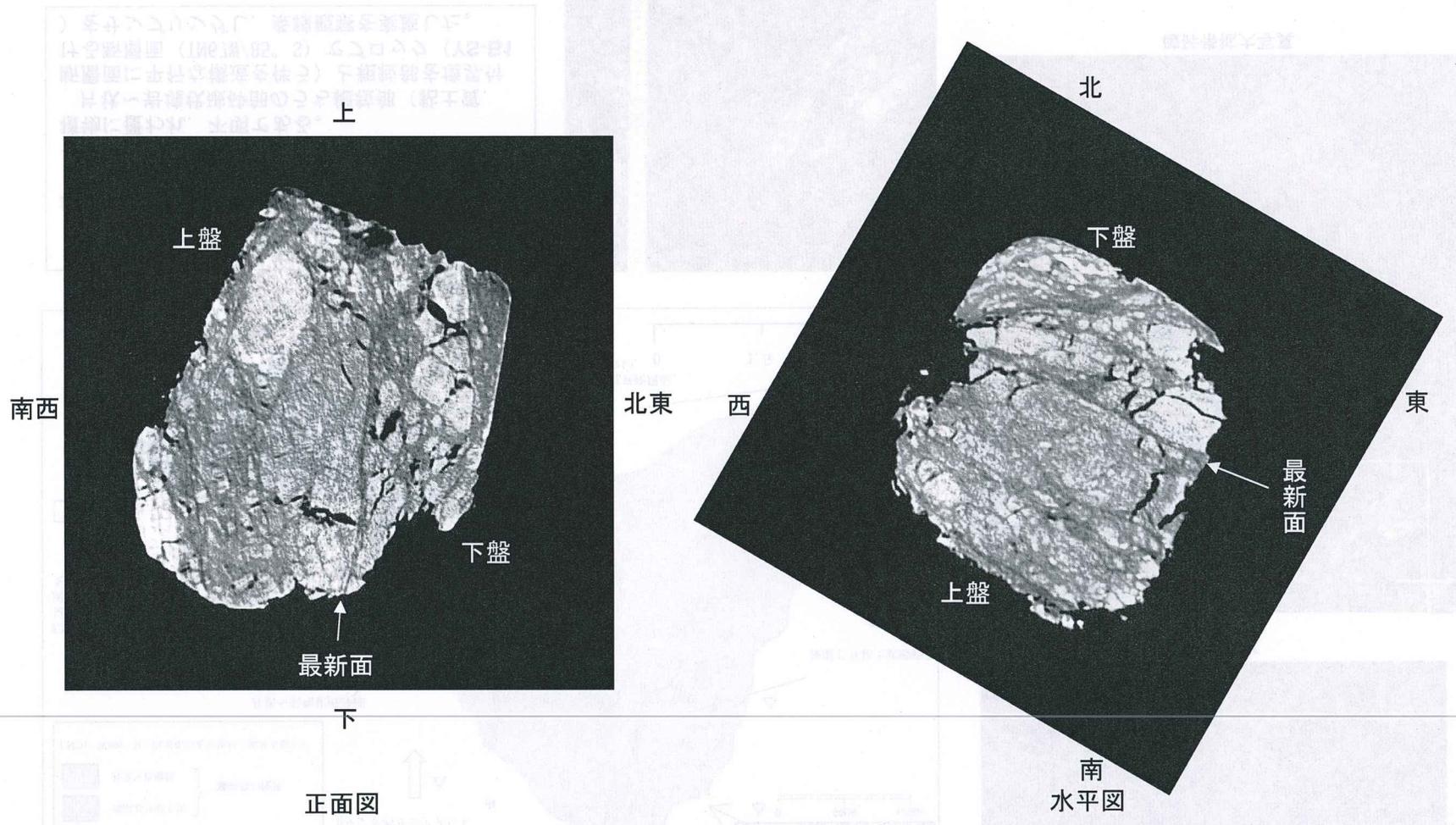


破碎帯拡大写真



右横ずれ成分を示す引きずり構造 (観察面の勾配30° W)

# CT画像解析結果(YS-B1)



断層の走向傾斜: TN67W/85S (現場での計測データ)

縦ずれ成分: 不明, 横ずれ成分: 右横ずれ

最新面はやや湾曲している。

最新面に沿う幅約2mmのゾーンで密度が低い(粘土状破碎部)。

※正面図は露頭奥側から露頭側に向けて、  
水平図は上方から下方に向けて撮影。

YS-B1



YS-B1(上盤下面)

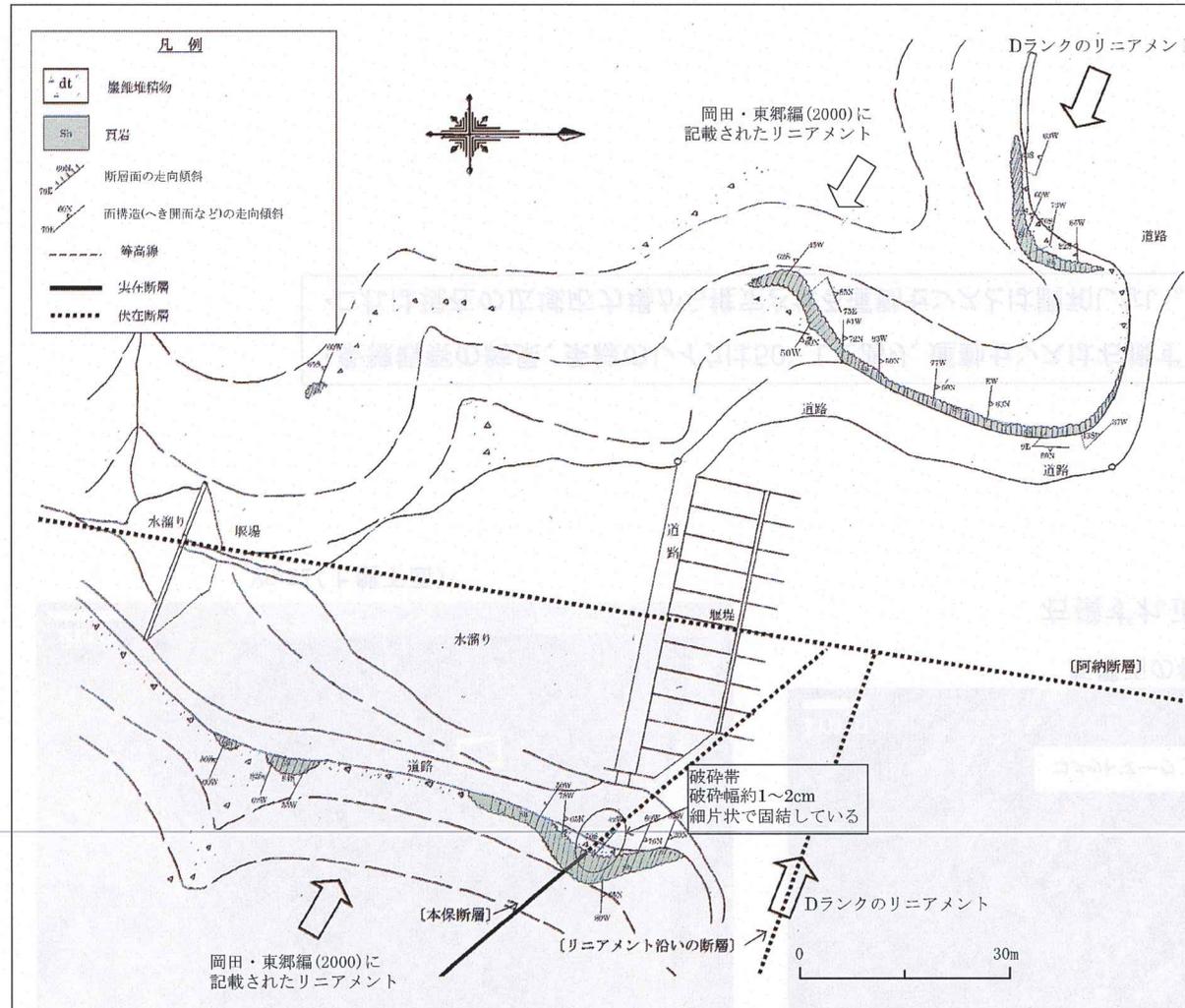


断層面の状況  
右横ずれ正断層



- ・条線観察の結果、条線のレイクは50° Lであり、運動センスは右横ずれ正断層である。
- ・これは現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない。

# 矢代リニアメントの調査結果 (Loc.3)



露頭写真 (丹波帯頁岩状況)



露頭写真 (丹波帯破碎帯)

Loc.3 ルートマップ

Dランクのリニアメント判読位置及び岡田・東郷編(2000)のリニアメント記載位置において剥ぎ取り調査を行った。  
 西側の露頭にはリニアメント直交方向に約55mの頁岩の連続露頭を確認したが、断層は認められない。  
 東側の露頭にはリニアメント直交方向に約35mの頁岩の連続露頭と固結した破碎帯を有する断層が一条認められた。断層面の走向傾斜はN42° W/70° Sであり、中江他(2002)の断層の記載位置や断層の走向から本保断層に相当するものと判断し、西側の連続露頭で断層が認められないことから、阿納断層で切られると考えられる。

## 敷地周辺のリニアメントの評価まとめ(1/2)

名称	調査結果				評価
	露頭における破碎部の性状等	条線観察	研磨片・薄片観察	海上音波探査	
多門院 リニアメント	<p>○リニアメント北東部では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、破碎帯は固結。</p> <p>○リニアメント中央部では変質部が認められたが、脈状に分布する薄い白色粘土は露頭内でせん滅。</p>	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い断層や変質帯による組織地形</li> </ul>
岸谷 リニアメント	<p>○リニアメント北東部では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、破碎帯が固結。</p> <p>○リニアメントの中央部では、固結した破碎帯の割れ目に白色粘土が網目状に充填。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N70E/64Nの断層面上でレイク42R左横ずれ・正断層センス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新活動は左横ずれ・正断層センス</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない</li> <li>古い断層や変質帯による組織地形</li> </ul>
加斗 リニアメント	<p>I、IIリニアメント</p> <p>○周辺の中位段丘面の分布高度は一律で傾動や変位・変形は認められない。</p>	—	—	<p>○海域延長部において後期更新世以降の地層に断層による変位・変形が認められない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来活動する可能性にある断層等は認められない</li> </ul>
	<p>IIIリニアメント</p> <p>○判読位置には断層は認められず、リニアメントは、河谷の右屈曲部の範囲とチャートの分布がほぼ一致。</p>	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>頁岩とチャートとの地質境界による組織地形</li> </ul>
	<p>IVリニアメント</p> <p>○リニアメントを横断して分布するチャートに断層や変質帯は認められず、断層を示唆する変位はみられない。</p>	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>断層は認められない</li> </ul>
中井 リニアメント	<p>○リニアメントの北西部では、リニアメント方向と調和的な走向の断層が認められたが、破碎帯が固結。</p> <p>○岡田・東郷編(2000)に記載されたリニアメント北西部と南東部では、リニアメント記載位置にチャートの健岩露頭を確認。</p>	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い断層による組織地形</li> </ul>

## 敷地周辺のリニアメントの評価まとめ(2/2)

名称	調査結果				評価
	露頭における破碎部の性状等	条線観察	研磨片・薄片観察	海上音波探査	
三浜峠 リニアメント	<p>○リニアメント判読位置では、チャートの健岩露頭を確認。</p> <p>○岡田・東郷編(2000)に記載されたリニアメントの北部では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層、割れ目を確認したが、破碎帯が固結していること、割れ目に白色粘土が網目状に充填していることを確認。</p>	—	—	○海域延長部において後期更新世以降の地層に断層による変位・変形が認められない	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い断層や変質帯による組織地形</li> </ul>
子生 リニアメント	<p>○北部リニアメント判読位置の破碎帯の断層面に沿って粘土が認められることから、変形組織の観察及び条線観察を実施。</p> <p>○南部リニアメント判読位置では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められ、破碎帯が固結していることを確認。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N73E/48Nの断層面上でレイク60° L 左横ずれ・逆断層センス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新活動は左横ずれ・逆断層センス</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない</li> <li>古い断層や地質構造を反映した組織地形</li> </ul>
石山坂峠北 リニアメント	<p>○リニアメント判読位置で、リニアメントの方向と調和的な断層が認められた。断層面は湾曲し、破碎帯周辺の短い割れ目の多くは変質粘土を挟み、網目状を呈することから、変形組織の観察及び条線観察を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N85E/60Sの断層面上でレイク20° R 右横ずれ・逆断層センス</li> <li>・EW/60Sの断層面上でレイク45° R 右横ずれ・正断層センス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新活動は左横ずれ・正断層センス</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない</li> <li>古い断層による組織地形</li> </ul>
矢代 リニアメント	<p>○リニアメント中央部では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、破碎帯が固結。</p> <p>○リニアメント東部では、リニアメントの方向と調和的な走向の断層が認められたが、断層面が不鮮明で途切れる。</p> <p>○リニアメント西部では、リニアメント判読位置及び文献のリニアメント記載位置に頁岩の連続露頭を確認し、断層は認められない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・N67W/85Sの断層面上でレイク50° L 右横ずれ・正断層センス</li> </ul>	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の広域応力場から推定される運動センスとは調和しない</li> <li>古い断層や地質構造を反映した組織地形</li> </ul>

敷地周辺のリニアメントは、破碎部性状、運動センスなどに着目した結果、破碎帯が固結していること、現在の応力場と運動センスが調和しないこと等から、将来活動する可能性のある断層等は認められないと評価する。

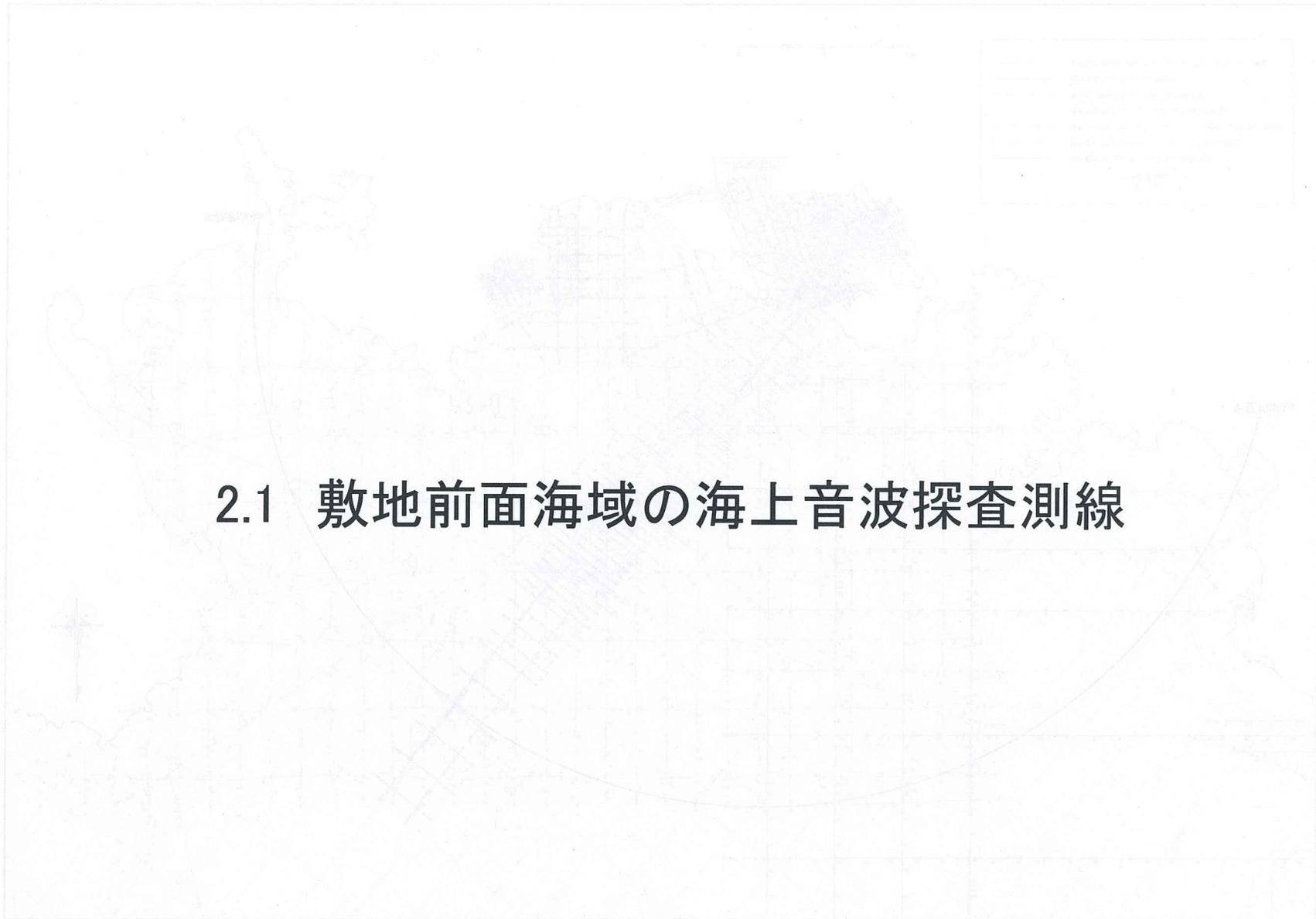
## 2. 敷地前面海域における調査結果

2.1	敷地前面海域の海上音波探査調査結果	182
2.2	敷地前面海域の地質調査結果	183
2.3	敷地前面海域の地質調査結果	188
2.4	敷地前面海域の地質調査結果	189
2.5	敷地前面海域の地質調査結果	185
2.6	敷地前面海域の地質調査結果	187

# 目次

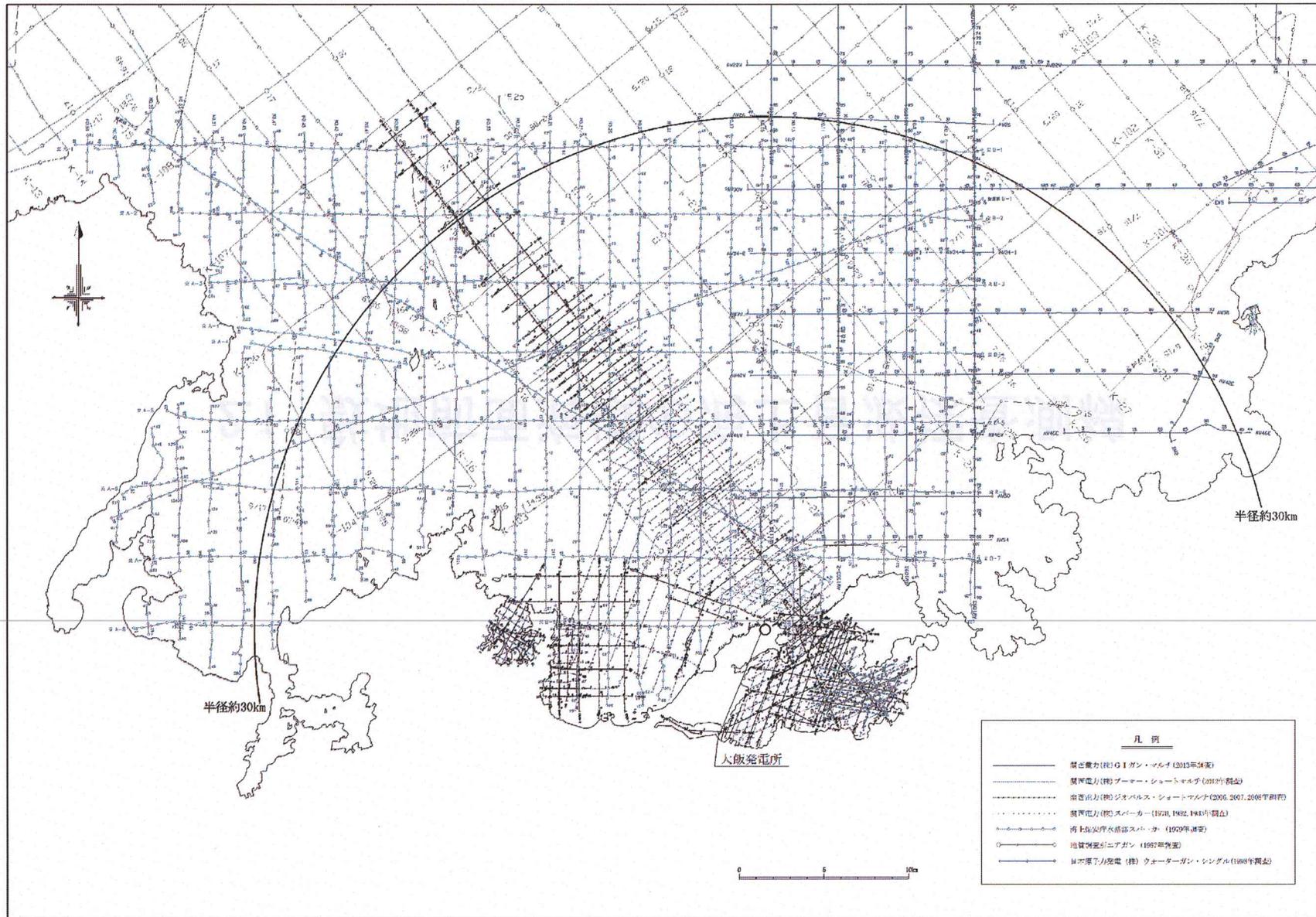
2. 敷地前面海域における調査結果	
2.1 敷地前面海域の海上音波探査測線	159
2.2 敷地前面海域の断層分布	162
2.3 文献調査結果	166
2.4 FO-A断層、FO-B断層、FO-C断層	169
2.5 FO-A断層、FO-B断層と熊川断層の連動について	182

---



## 2.1 敷地前面海域の海上音波探査測線

# 敷地前面海域の海上音波探査測線



# 海域の地質層序

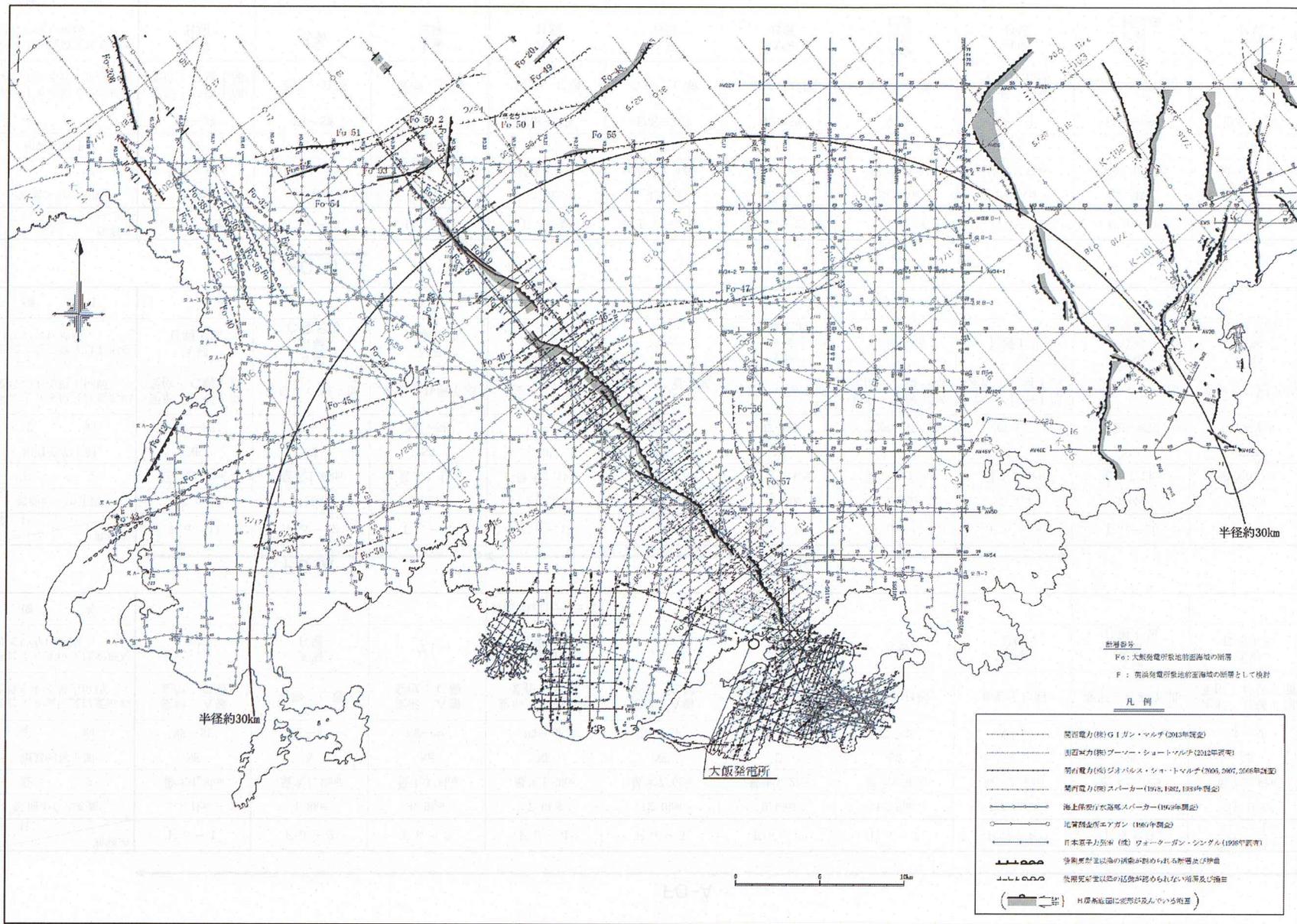
区分		陸 域		海 域									
文献名		関西電力㈱	関西電力㈱	日本原電㈱	海上保安庁水路部		地質調査所		福井県	田中・小草			
地質時代		敷地周辺	敷地前面	敦賀発電所	若狭湾西部 (1980)	若狭湾東部 (1980)	経ヶ岬沖 (1993)	ゲンタツ瀬 (2000)	柳ヶ瀬断層帯 (1997)	山陰沖 (1981)			
第四紀	完新世	沖積層 新期扇状地堆積物		A	A	I <sub>w</sub>	I <sub>w</sub>						
	更新世	後期	古期扇状地堆積物 段丘堆積物	B	B	II <sub>w</sub>	II <sub>w</sub>	T2 F.	T2 F.	P <sub>1</sub>	e		
		中期		C	C <sub>1</sub>					T1 F.		T1 F.	P <sub>2</sub>
		前期	能登野層		C <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>							
新第三紀	鮮新世	後期		D	III <sub>w</sub>	III <sub>w</sub>	HF.	HF.		d <sub>2</sub>			
		前期								C <sub>3</sub>	H2 F.	H2 F.	d <sub>1</sub>
	中新世	後期	石英閃緑岩	R	R	IV <sub>w</sub>	IV <sub>w</sub>	K2 F.	K2 F.	B	c		
		中期	青葉山安山岩類 大山安山岩								K1 F.	K1 F.	b
		前期	内浦層群 北但層群										a
	先新第三紀		花崗岩，流紋岩 丹波帯，超丹波帯 舞鶴帯			V <sub>w</sub>	V <sub>w</sub>						

断層階		断層階																
断層階	沖積層	沖積層	K	K	A*	A*	K1E	K1E	B	P								
		沖積層									K2E	K2E	B	C				
		沖積層													K3E	K3E	B	D
		沖積層																
	沖積層	沖積層	C	C	B*	B*	J3E	J3E	B	D								
		沖積層									C	C	B	E				
		沖積層													C	C	B	E
		沖積層																
	沖積層	沖積層	A	A	I*	I*	J1E	J1E	A	F								
		沖積層									A	A	I	E				
		沖積層													A	A	I	E
		沖積層																
沖積層	沖積層	A	A	I*	I*	J1E	J1E	A	F									
	沖積層									A	A	I	E					
	沖積層													A	A	I	E	
	沖積層																	A

## 2.2 敷地前面海域の断層分布

敷地前面海域の断層分布

# 敷地前面海域の断層分布図



# 敷地前面海域の断層一覧表(1)

## FO-A

項目 \ 断層名	Fo-1	Fo-2	Fo-3	Fo-4	Fo-5	Fo-6	Fo-7	Fo-8	Fo-9	Fo-10・Fo-14
敷地からの距離	3.1km	4.8km	6.9km	7.0km	12.0km	9.9km	12.0km	13.6km	16.1km	18.9km
長さ	最大4.8km	最大1.0km	最大3.8km	最大1.3km	最大7.6km	最大1.2km	最大1.4km	最大1.6km	最大2.1km	最大8.6km
相対的落下側	NE	N	NE	NE	NE	E	SW	W	SW	NE
走向	NW-SE	E-W	NW-SE	NW-SE	NW-SE	N-S	NW-SE	N-S	NW-SE	NW-SE
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：A層 変位：C層	変形：C層	変形：A層 変位：C層	変形：B層下部 変位：C層	変形：A層 変位：C層	変形：C層	変形：B層	変形：C層	変形：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部
断層により変位又は変形を受けていない地層	なし	A層 B層	なし	A層 B層上部	なし	B層	A層	A層 B層	A層 B層 C層上部	A層 B層上部
備考				※NE側はFo-3まで						

## FO-A

## FO-B

項目 \ 断層名	Fo-11	Fo-12	Fo-13	Fo-15	Fo-16	Fo-17	Fo-18	Fo-19	Fo-20	Fo-21
敷地からの距離	17.0km	17.9km	20.2km	23.2km	24.5km	25.1km	29.2km	28.1km	3.6km	4.4km
長さ	最大1.5km	最大1.6km	最大1.1km	最大2.1km	最大2.5km	最大1.3km	最大8.1km	最大4.2km	最大1.2km	最大0.7km
相対的落下側	NE	SW	SW	NE	NE	NE	—	—	NNE	NNW
走向	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	ESE-WNW	ENE-WSW
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：C層下部	変形：B層下部	変形：C層	変形：B層 変位：C層下部	変形：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：C層下部	変形：C層下部
断層により変位又は変形を受けていない地層	A層 B層上部	A層 B層 C層上部	A層 B層上部	A層 B層	A層	A層 B層 C層上部	B層上部	B層上部	A層 B層 C層上部	A層 B層 C層上部
備考										

## FO-C

項目 \ 断層名	Fo-22	Fo-23	Fo-24	Fo-25	Fo-26	Fo-27	Fo-28	Fo-29	Fo-30	Fo-31
敷地からの距離	6.0km	5.4km	3.1km	3.3km	4.0km	3.8km	27.3km	27.3km	23.4km	28.7km
長さ	最大1.0km	最大2.5km	最大2.1km	最大1.7km	最大1.4km	最大2.9km	最大9.2km	最大3.6km	最大5.6km	最大5.5km
相対的落下側	SE	SE	SE	ESE	SSE	SE	E	SW	NNW	SSE
走向	NE-SW	NE-SW	NE-SW	NNE-SSW	ENE-WSW	NE-SW	N-S	NW-SE	ENE-WSW	ENE-WSW
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：B層	変形：C層	変形：C層	変形：C層	変形：C層	変位：R層	変形：C層 変位：R層	変位：C層下部	変形：C層
断層により変位又は変形を受けていない地層	A層 B層	A層	A層 B層	A層 B層	A層 B層	A層 B層	A層 B層 C層	A層 B層	A層 B層 C層上部	A層 B層
備考										

敷地前面海域の断層一覧表(2)

項目 \ 断層名	Fo-32	Fo-33	Fo-34	Fo-35	Fo-36	Fo-37	Fo-38	Fo-39	Fo-40	Fo-41
敷地からの距離	39.5km	36.2km	36.7km	39.3km	39.3km	38.3km	41.6km	41.3km	37.8km	46.1km
長さ	最大6.8km	最大4.5km	最大7.3km	最大7.9km	最大8.3km	最大9.3km	最大7.5km	最大8.2km	最大8.3km	最大7.7km
相対的落下側	SW	ESE	NE	SW	SW	NE	SW	NE	NE	NE
走向	NW-SE	NNW-SSE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE	NW-SE
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：C層下部	変形：C層下部 変位：C層下部	変形：C層 変位：R層	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層下部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層下部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変位：C層	変形：B層下部 変位：C層下部
断層により変位又は変形を受けていない地層	A層 B層 C層上部	A層 B層 C層上部	A層 B層	A層 B層	A層 B層 C層上部	A層 B層	A層 B層 C層上部	A層 B層	A層 B層	A層 B層上部
備考										

項目 \ 断層名	Fo-42	Fo-43	Fo-44	Fo-45	Fo-46-1	Fo-46-2	Fo-47	Fo-48	Fo-49	Fo-50-1
敷地からの距離	37.1km	38.7km	36.1km	26.9km	21.8km	20.9km	20.7km	34.8km	35.7km	34.3km
長さ	最大7.1km	最大3.2km	最大15.6km	最大16.0km	最大4.1km	最大5.3km	最大15.5km	最大8.7km	最大8.8km	最大8.4km
相対的落下側	SE	S	SE	SSE	SSE	SSE	N	SE	SE	NNW
走向	NE-SW	E-W	NE-SW	ENE-WSW	ENE-WSW	ENE-WSW	E-W	NE-SW	NE-SW	ENE-WSW
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：B層下部	変形：C層	変形：C層	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層下部 変位：R層	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部
断層により変位又は変形を受けていない地層	A層 B層上部	A層 B層	A層 B層	A層 B層	A層 B層 C層最上部	A層 B層 C層最上部	B層 C層上部	A層 B層上部	B層	B層
備考	※北側は陸まで	※西側は陸まで	※西側は陸まで	※西側はNo.49まで						東側はFo-48、西側はFo-53-2まで

項目 \ 断層名	Fo-50-2	Fo-51	Fo-52	Fo-53-1	Fo-53-2	Fo-54	Fo-55	Fo-56	Fo-57	Fo-58
敷地からの距離	36.7km	38.5km	38.7km	35.1km	34.8km	36.9km	30.4km	12.4km	10.1km	32.5km
長さ	最大7.4km	最大16.8km	最大3.8km	最大4.5km	最大7.3km	最大7.3km	最大9.8km	最大9.6km	最大4.5km	最大4.5km
相対的落下側	NNW	SE	SE	SSE	E	N	SSE	E	W	—
走向	ENE-WSW	NE-SW	NE-SW	ENE-WSW	N-S	E-W	ENE-WSW	N-S	N-S	NE-SW
断層により変位又は変形の可能性がある最上位層	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：C層下部	変形：C層上部 変位：C層下部	変形：B層下部 変位：R層	変形：C層 変位：R層	変形：C層 変位：R層	変形：C層上部 変位：C層下部
断層により変位又は変形を受けていない地層	B層	A層 B層上部	A層 B層上部	B層上部	B層上部	A層 B層	A層 B層上部	A層 B層	A層 B層	A層 B層
備考	東側はFo-53-2まで				南側はC-56Gまで					長さが長く敷地に近い断層を計測

種別	水質調査									
調査項目	水質調査									
調査時期	2018-01	2018-02	2018-03	2018-04	2018-05	2018-06	2018-07	2018-08	2018-09	2018-10
調査地点	水質調査									
調査結果	水質調査									

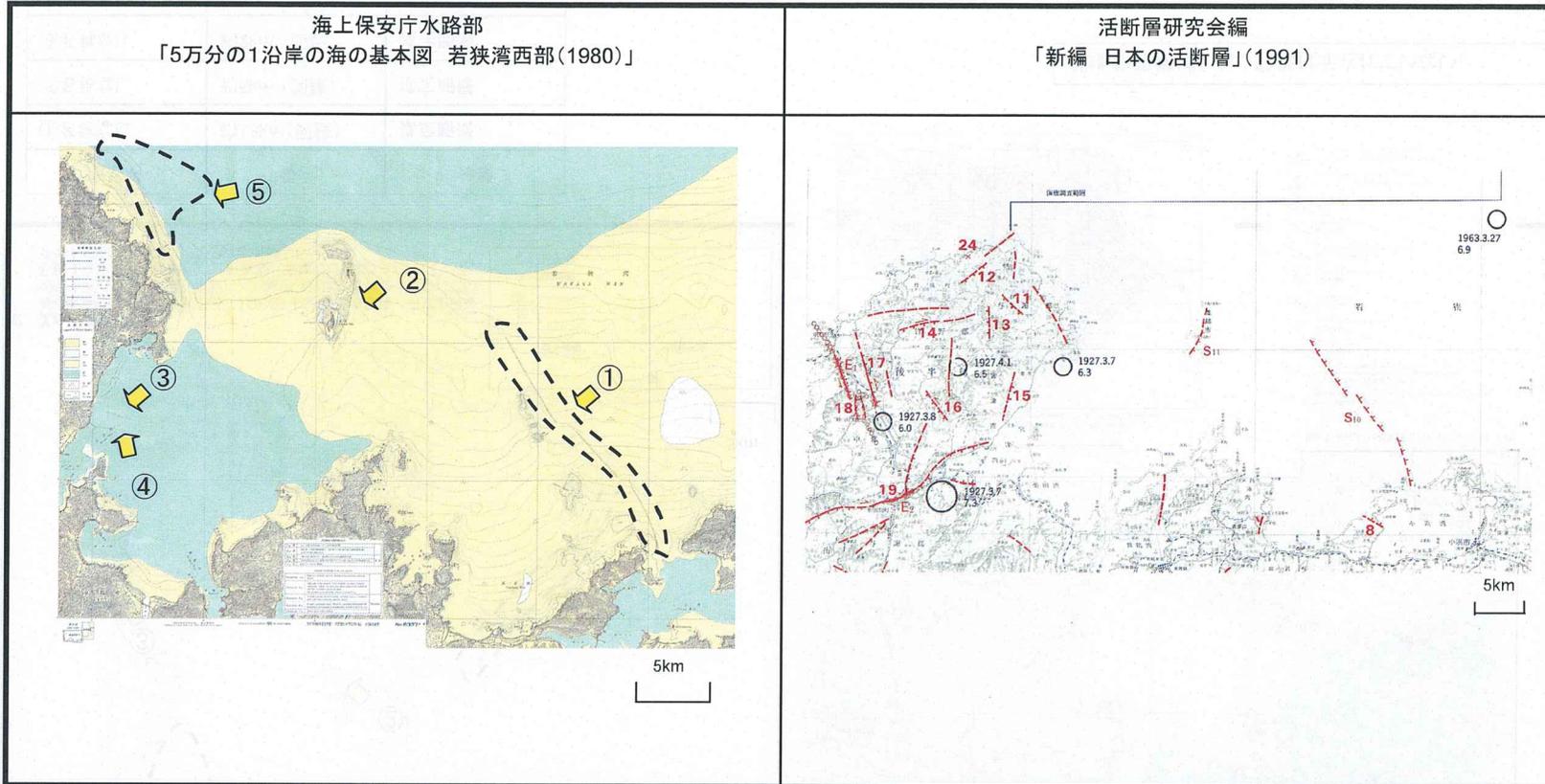
種別	水質調査									
調査項目	水質調査									
調査時期	2018-01	2018-02	2018-03	2018-04	2018-05	2018-06	2018-07	2018-08	2018-09	2018-10
調査地点	水質調査									
調査結果	水質調査									

## 2.3 文献調査結果

種別	水質調査									
調査項目	水質調査									
調査時期	2018-01	2018-02	2018-03	2018-04	2018-05	2018-06	2018-07	2018-08	2018-09	2018-10
調査地点	水質調査									
調査結果	水質調査									

# 敷地前面海域(約30km範囲)に関する文献調査結果(1)

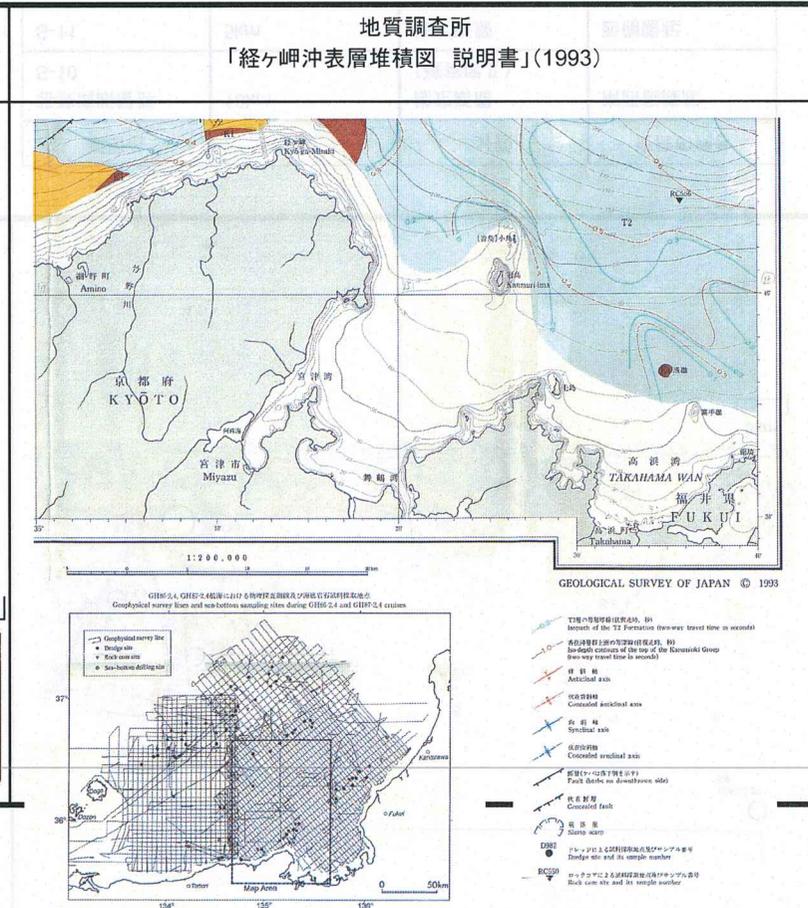
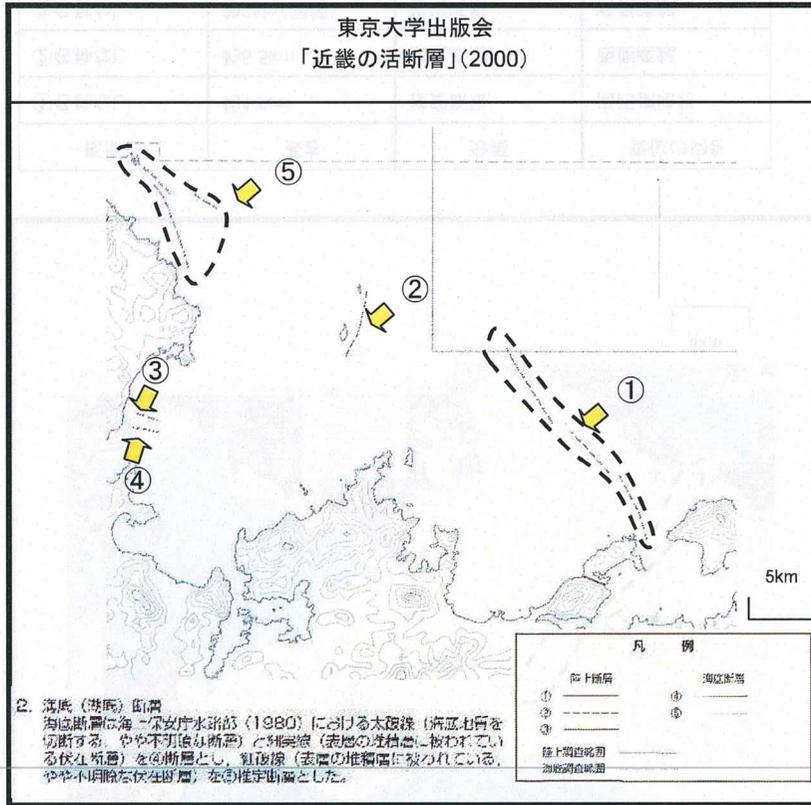
第122回審査会合  
p160再掲



断層名	長さ	分類	変位の向き
①名称なし	約18km	推定断層	南西側隆起
②名称なし	約5.5km	推定断層	西側隆起
③名称なし	約2km(図読)	推定断層	南側隆起
④名称なし	約2km(図読)	推定断層	北側隆起
⑤名称なし	約10km	推定断層	西側隆起

断層名	長さ	分類	変位の向き
若狭湾断層群 S-10	18km	推定断層 (確実度Ⅱ)	南西側隆起
S-11	5km	推定断層 (確実度Ⅱ)	西側隆起

# 敷地前面海域(約30km範囲)に関する文献調査結果(2)



敷地前面海域には、断層は示されていない。

「冠島東方に南北性の断層が図示されているが、この断層は第四紀後期には活動的ではないと思われる。」(近畿の活断層)